

▲ 国道249号線

会員各社名

アイサワ工業㈱	オリエンタル白石㈱	第一建設工業㈱	東洋建設㈱	㈱北都組
青木あすなろ建設㈱	㈱加賀田組	大成建設㈱	戸田建設㈱	㈱本間組
あおみ建設㈱	鹿島建設㈱	大成ロテック㈱	飛島建設㈱	前田建設工業㈱
㈱安藤・間	㈱熊谷組	大日本土木㈱	㈱NIPPO	㈱丸山工務所
石黒建設㈱	㈱鴻池組	大豊建設㈱	西松建設㈱	三井住友建設㈱
岩田地崎建設㈱	五洋建設㈱	㈱竹中土木	日特建設㈱	みらい建設工業㈱
㈱植木組	佐藤工業㈱	鉄建建設㈱	日本国土開発㈱	名工建設㈱
㈱大林組	清水建設㈱	東亜建設工業㈱	㈱福田組	りんかい日産建設㈱
㈱大本組	ショーボンド建設㈱	東急建設㈱	㈱フジタ	若築建設㈱
㈱奥村組	㈱錢高組	東鉄工業㈱	㈱不動テトラ	（49社）

75 2024.3

発行　一般社団法人　日本建設業連合会　北陸支部　広報委員会
〒950−0965　新潟市中央区新光町6番地1（興和ビル7F）TEL（025）285−8886

印刷　新潟中央印刷

2024.3.25 発行

確かなものを 地球と未来に 日建連

ゆう

緊急特集 令和6年能登半島地震

特集1―― 対談
北陸の活力ある地域づくりについて

特集2―― 市民現場見学会

特集3―― 親子工事見学会

特集4―― けんせつフェア北陸 in 金沢2023

75 2024.3



【県道38号線】



【国道249号線】



【県道269号線】



【国道249号線深見海岸】



【のと里山海道】



【能越道】



【能越道】



【県道38号線】



【広地川】

一般社団法人　日本建設業連合会　北陸支部

令和6年能登半島地震



一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 支部長

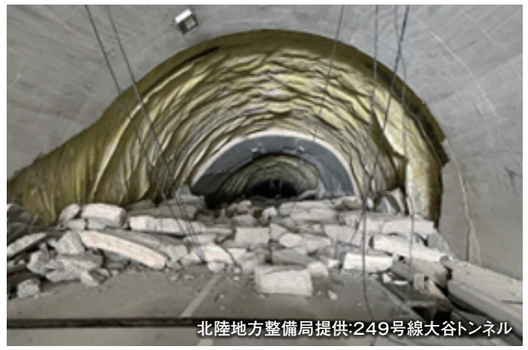
木村　淳二

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

今なお行方不明者が存在し、また数多くの方々が避難生活を余儀なくされており、一刻も早い救助・救援、生活の復旧が最優先課題となっています。

正月休みにもかかわらず、また、いまだ余震が続き、降雪もある中、過酷な状況下で災害応急対策に取り組んでいただいた、日建連北陸支部の会員各位や協力会社各位をはじめ、出動体制を整えて準備していただいている会員各位、応援いただいた日建連本部の皆様、物資・機械等の応援をいただいた各支部の皆様に深く感謝し、お礼を申し上げます。

能登地域の皆様がこれまで通りの生活に戻られるためには、まだまだ長い道のりであると思いますが、「災害対応は建設業の第一義」ですので、我々建設業界、そしてその一翼を担う日建連が一丸となって、能登半島の復旧にむけて全力を挙げて取り組んでいきたいと思います。ついては、今後とも復興支援活動にご協力を、ご支援を賜りますようお願いいたします。



北陸地方整備局提供:249号線大谷トンネル



北陸地方整備局提供:河原田川

国土交通大臣激励

鹿島建設㈱ 北陸支店 土木部次長　安齋　勝

1月17日（水）に「令和6年能登半島地震」の被災状況・復旧状況の視察にお越しになった斉藤国土交通大臣から、復旧従事者の日本建設業連合会北陸支部に対して激励のお言葉を頂き、復旧に従事する我々の大きな励みとなりました。また、日建連北陸支部を代表して私から道路啓開活動等について報告させていただきました。

【報告要旨】

日建連 北陸支部は、七尾以北の幹線道路が大きな被害を受けていることが判明した2日の午前に災害協定に基づき、北陸地方整備局から七尾～輪島・珠洲までの道路啓開の支援要請を受けました。

それを受け、私は2日に会社から連絡を受け、すぐに新潟の自宅から現地に向かい、七尾～珠洲方面の道路啓開作業に24時間体制で従事しました。2日夜～3日未明にかけて順次、労務や重機などの資機材を投入し、4日15時には七尾～輪島・珠洲方面への大型車の通行が確保できました。その後は、輪島市熊野町、市ノ瀬町において、河原田川の土砂崩落箇所での復旧対応にあたるとともに、消防や警察、国土交通省、石川県の方々と安否不明者の捜索に協力しています。

今回の対応にあたり、余震や降雪が続き、作業環境が整っていない中で正月休みを返上して、道路啓開作業に従事してくださっている協力会社の方々や、資機材の調達にご協力いただいている会社の方々など、関係する皆様のご協力に心より感謝しています。



清水建設㈱ 北陸支店 土木部工事主任　宮本　利典

地震発生時、私は石川県津幡町の自宅で過ごしていましたが、突然スマートフォンの警報アラームが鳴りだし程なくして自宅が激しく揺れ始めました。

余震に気を付けながら自宅の片付けを進める一方で、私が担当している作業所の事も心配でしたが、当日は既に暗くなっていたため、翌朝、作業所の被災状況を確認に向かいました。幸い、大きな被害を受けておらずホッとしたことを覚えています。

1月2日、能登半島の被害状況が徐々に明らかになりニュースで報道される中、私は、会社からの指示を受けて復旧対応のため能登へ向かいました。

当社への国土交通省からの要請は、穴水から輪島間を一刻も早く道路啓開することで、当社は1月2日から作業にあたりましたが、現地は土砂崩壊やそれに伴う大小多数の落石、道路陥没、倒木等が各所で発生しており、復旧作業は多岐にわたり、難航を極めました。

また、被災当初は通信環境が非常に悪く、スムーズな連携が取れなかった等の問題も発生したものの、関係者と共に24時間体制で啓開作業に従事し、1月4日には県道1号、271号、303号の作業を完了させることが出来ました。

その後、全国各支店からの応援者を含めたメンバーに業務を引継ぎ、一旦現場を離れましたが、当社は、現在も国土交通省、防衛省、石川県等関係者の方々と一丸となり、復旧作業に尽力しています。

私も引き続き地元の人間として、また土木技術者として、復旧・復興に従事する全ての方々と協働し、全力で取り組んでいきたいと考えています。

緊急道路啓開

国道249号線及び県道38号、6号（輪島市）、県道40号、285号（珠洲市）他、市町村道等

担当：安藤ハザマ、熊谷組、清水建設、大成建設、大林組、前田建設工業、鹿島建設、西松建設、佐藤工業、東急建設、五洋建設、戸田建設

【2月5日現在】



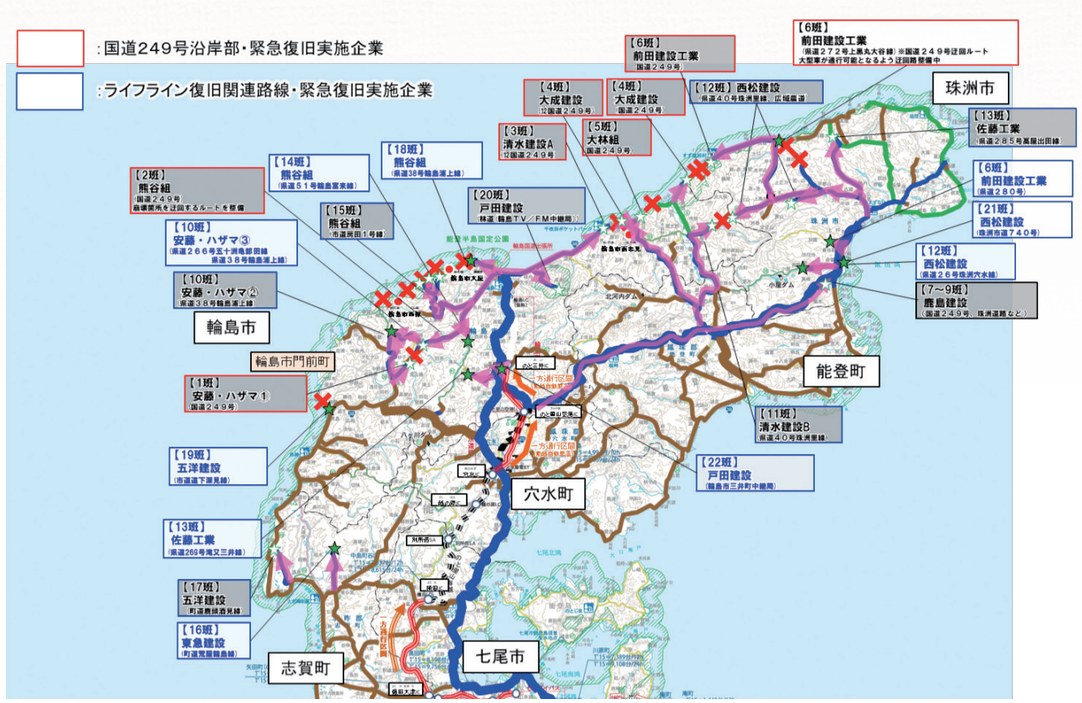


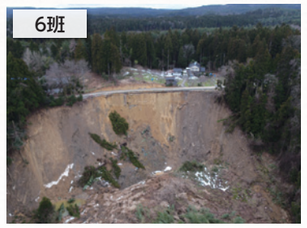






















【2月5日現在】

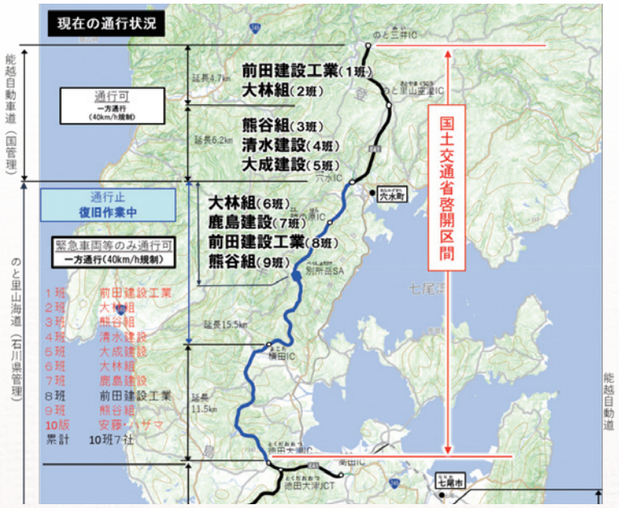
能越自動車道

輪島道路（のと三井IC－のと里山空港IC）	担当：前田建設工業、大林組
穴水道路（のと里山空港IC－穴水IC）	担当：熊谷組、清水建設、大成建設
のと里山海道（穴水IC－別所岳SA）	担当：大林組、鹿島建設、前田建設工業、熊谷組
（別所岳SA－得田大津IC）	担当：大林組、大成建設、前田建設工業、熊谷組、安藤ハザマ





［北陸地方整備局提供
能越自動車道］







［北陸地方整備局提供
のと里山海道］

【2月13日現在】

河道埋塞・海岸堤防　応急対策

河原田川（輪島市市ノ瀬地区、熊野地区）	担当：鹿島建設	寺地川2（砂防：輪島市）	担当：飛島建設
牛尾川（砂防：輪島市）	担当：フジタ	角間川（珠洲市）	担当：大成建設
山田川（能登町）	担当：佐藤工業	広地川（志賀町）	担当：五洋建設
鈴屋川・寺地川（輪島市）	担当：清水建設	宝立正院海岸（珠洲市）	担当：五洋建設







■物資支援等　【2月5日現在】

中部支部	ブルーシート	3795枚
	土のう袋	4040袋
	携帯トイレ	500枚
	保存水（2L）	400本
	カイロ	300個
関東支部	遠隔操作バックホウの輸送及びオペレーター派遣	
近畿支部	小型タンクローリー	2台
北陸支部	仮設トイレ	489基

担当：清水建設
（珠洲市・輪島市・能登町・志賀町・穴水町・七尾市・内灘町に設置）



［北陸地方整備局提供］

ゆう
2024.3

VISION ビジョン

CONTENTS

1 緊急特集
令和6年能登半島地震

5 VISION
「建設業界をとりまく環境と変革に向けて」

6 随想
「節目に立つ」

7 特集❶
対談
北陸の活力ある地域づくりについて

16 私のプライベートタイム
「38年ぶり」

17 特集❷
市民現場見学会

19 特集❸
親子工事見学会

21 特集❹
けんせつフェア北陸in新潟2023

23 現場で輝くけんせつ小町
「地域に密着し、線路を守る女性技術者を目指して」

24 **若手技術者の現場紹介**

25 **ゆうたいむす**
●「やはり、ぬるめの燗がいい。」

25 **事務局だより**

掲載文は2023年12月に寄稿いただいたものです。

「建設業界をとりまく環境と変革に向けて」



大成建設㈱北信越支店
支店長
冨永　正
Tadashi Tominaga

気候変動の影響により、震災、風水害などの自然災害は頻発化、激甚化しており、高度経済成長期以降に集中的に整備されたインフラ老朽化への対策が急務とされる中、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」がスタートしてから3年が経過し、防災・減災効果が発揮された事例も徐々に確認されてきています。昨年6月に可決された国土強靭化基本法の改正は、5か年加速化対策後においても後継計画の策定を法制化するものであり、さらに令和5年度補正予算において国土強靭化に関わる必要な公共事業費が緊急対応枠を含めて確保される等、今後も公共工事の活発化が見込まれ、建設業界に期待される「地域の守り手」としての役割は益々高まっていくものと予測されます。

一方で、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した資材価格の高騰や供給制約への対応、急激な円安の影響は尾を引いており、請負工事代金への転嫁が十分にされないなど、建設業界をとりまく環境は未だ厳しい情勢が続いています。また、本年4月からはいよいよ労働時間の上限規制が建設業界にも適用されます。ICT技術の導入やBIM/CIMの活用による働き方改革と生産性向上を推進するとともに、建設キャリアアップシステムの普及・促進による建設技能者の処遇改善や担い手確保といった喫緊の課題に真摯に取り組んでいく必要があります。CN（カーボンニュートラル）やGX（グリーントランスフォーメーション）についても積極的に取り組み、サステナブルな建設業界を築いていかなくてはなりません。

適正な工期の確保については、日建連としても重点的に取り組んでおり、北陸地方整備局の発注工事を中心に、4週8閉所への取り組みはかなり定着されてきましたが、工期に対する考え方は発注者によって温度差が見られるため、今後は同局の発注工事に限らず、他の公共発注機関や民間発注者にも波及させる必要があります。また、現場からは、時間外労働の上限規制の適用が相当厳しいという声や、週休二日制が確保されたとしても労働時間の削減には必ずしも直結していないという意見も聞かれます。

我々建設業界をとりまく環境は、待ったなしの課題が山積していますが、社会を下支えする建設業界の力は国力に直結するものであり、ここで停滞をさせるわけにはいきません。建設業界自身が変革を求められるフェーズに突入した今、会員各社が一丸となって知恵を絞り、建設技能者の処遇改善と新4K（給与・休暇・希望・カッコいい）を実現させ魅力あふれる業界を築きあげていきましょう。

随想 ZUISOU

「節目に立つ」



JR東日本上信越建設
プロジェクトマネジメントオフィス
所長
島児　伸次
Shinji Shimago

昨年度、鉄道開業150年を迎えました。

「線路が延びていくたびに、列車が速度を上げていくたびに、日本はひとつになり、鉄道の進化はこの国を動かす原動力となりました。」※

弊社上信越建設プロジェクトマネジメントオフィスは、信濃川水力発電再開発事業完成後の1991年に小千谷から三国峠を越えて高崎に本拠地をあらためて構えて以来30有余年、その時代その時代の社会、上信越を中心とした地域の皆さまのご要請にお応えするべく、北陸新幹線、八ッ場ダム建設に伴う吾妻線付け替え、岡谷・栃木・伊勢崎、そして2022年6月に全線高架化切換を無事完遂させた新潟などの高架化事業、本庄早稲田駅など国土計画・地域計画上大変意義深く多彩なプロジェクトを担当させていただいております。

弊社グループは、2018年にグループ経営ビジョン「変革2027」を策定しました。その基本方針は、これまでの鉄道のインフラ等を起点とした鉄道の進化を通じたサービスのレベルアップから、ヒトが生活するうえでの「豊かさ」を起点とした社会への新たな価値の提供へと価値創造ストーリーを転換していくというものです。これまでの当社グループの事業は、多くのお客さまにご利用いただく鉄道や駅という限られた領域の中でサービスを展開することをメインとしてきましたが、今後、人が集まる機会や移動する機会が縮小していくことが想定されるため、お客さま一人ひとりに焦点を当てた価値提供に発想を変え、新たなビジネスを創造することが重要になります。

そして、ビジョン策定直後、2020年度に弊社発足後初となる赤字決算となるなど、新型コロナウイルス感染症の影響でご利用が減少し、大変厳しい経営環境に直面しました。時計の針が10年早く回り、「変革2027」で想定した将来の環境変化が足元で起き、「変革2027」の実現に向けた取組みのレベルとスピードを上げていかなくてはなりません。中長期的な視点での構造改革を断行し、具体的な成果を出すことで、確実に前進していかなければなりません。

新たなビジネスを創造していくためにも、経営体質の強化が必要です。足元でのコストダウンはもとより、鉄道事業の特徴である高い固定費率の削減についても中長期的な構造改革を着実に進めていきます。また、ビジネスの創造を通じて、社会課題の解決、SDGsの達成に取り組んでいきます。例えば、弊社グループが持続的な成長を続けるために地方創生、地方をいかに活性化させていくかということに注力していきます。

現在進行形の弊社グループの取り組みについて紹介させていただきましたが、「鉄道のインフラ等を起点」から「ヒトが生活するうえでの「豊かさ」を起点」へ、「価値創造ストーリー」を転換する基本方針を初めて目の当たりにした当時、弊社建設部門の社員として少し戸惑いを覚えました。その時、入社したばかりのころにいただいた教えに救われました。それは、建設部門には「お客さま」がいること。そして、「お客さま」は弊社グループをご利用いただく「お客さま」と弊社グループの事業を営む支社をはじめとした「お客さま」、そして地域の皆さまがいらっしゃるということです。これまでと何も違わない、より本質的な方針があらためて示されたということでした。

ともすれば、技術継承など現状維持・現状改善に目が向かい内向きとなりがちな昨今でありますが、今一度原点に立ち返り、「お客さま」のために新たな価値を創造すべく、「お客さま」に係るさまざまな情報を探索することがこれまで以上に求められていると感じております。

「これまでも、これからも行き先は新しい未来」※であるように。

※鉄道開業150年「歴史」篇（弊社）より

特集 1



対談

日本建設業連合会北陸支部長
木村淳二
Junji Kimura

北陸地方整備局長
遠藤仁彦
Kimihiko Endo

■日時／2023年12月11日（月） 10:00～11:30　■場所／白山会館2階「明浄」

今回は、昨年7月に就任された北陸地方整備局長 遠藤仁彦氏と日建連北陸支部長 木村淳二氏による対談です。
局長ご就任以来5ヶ月を経てのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保についてお話を伺いました。

対談要旨

①北陸地方整備局長ご就任5ヶ月を振り返って
②2023年度補正予算、2024年度予算について
③北陸の活力ある地域づくりについて（DXの取り組み推進）
④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革（週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進）について
⑤建設界の広報活動について
⑥日本建設業連合会等への要望について
⑦災害対応について
⑧終わりに

遠藤仁彦 氏｜略歴

昭和63年 4月	北海道開発庁 採用	
平成21年 7月	国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 港湾企画官	
平成23年 8月	同	同 開発管理部 開発調整課 開発企画官
平成25年 2月	同	港湾局 技術企画課 技術監理室長
平成28年 1月	防衛省 沖縄防衛局 次長	
平成31年 1月	国土交通省 港湾局 技術企画課長	
令和 2 年 4月	同	九州地方整備局 副局長
令和 3 年 7月	同	大臣官房 技術参事官（港湾）
令和 5 年 7月	現職	

①北陸地方整備局長 ご就任5ヶ月を振り返って

（日本建設業連合会北陸支部長）

遠藤局長様におかれましては、ご就任（2023.7.4）されて約5ヶ月が過ぎたところですが、この間に、地域の知事、自治体首長や建設業界の方々から様々なご意見やご要望をお聞きされていることと思いますが、この間を振り返って頂いて、北陸地域の印象などをお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

7月4日に赴任して、7月、8月は地域の事情や早期予算化という話を含め、インフラに対する地域の必要性、重要性をそれぞれの地域の方々から聞かせていただき、改めて北陸地域の高いポテンシャルを感じました。新潟から西の富山は中部圏から約100キロ、石川は近畿圏から約100キロと、日本の多様な大都市圏と非常に近接しているという圏域であることや、その圏域の中で全国、世界とも競争ができるものづくり産業や観光地があり、非常にポテンシャルが高い地域だと思いました。加えて、地盤や地形の問題、背後には大変急峻な地形を抱えているということを含めて、非常に災害に脆弱な地域でもあるということもあり、ポテンシャルがある反面、非常に脆弱な側面もあるという印象です。

5ケ月の間で地域の歴史的な成り立ちも含めて勉強させてもらい、インフラが地域に果たす役割の大きさや重要性というものを痛感させていただいたところです。例えば、富山県の成り立ちは明治の初期から中期にかけて石川県から分県し、いわゆる治水分県といわれていますが、石川県から袂を分かってからも、山から大量の土砂による大きな災害があり、川も急峻な暴れ川であるが故に扇状地の使い方も歴史的に定まらず、大変な状況の中で、まずは山を治めることにより治水が進んで、加えて、治水が進むと同時にダムの水力発電による利水が進んだことにより、全国的にも非常に安価な電力が供給できることとなりました。治水も進み、海に大量の土砂が出ない川になると、今度は、大水深の港湾も開発が可能になりました。安価な電力、海外から安い資材が運び込める港湾の開発、加えて、高速道路ネットワークが全国的に充実し、産業立地が加速的に進んだことで、今の富山県の姿になっています。砂防、河川、道路、港湾事業が相まって、今の富山県の経済が歴史的に出来上がったことを考えれば、インフラの役割として地域を形作るということが、歴史的に見てもすごく分かりやすいものとなっています。整備局の立場でインフラを所管させていただいて、非常に身が引き締まる思いを感じています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

弊社では新潟、富山、石川に加え、福井も入れた約600キロという非常に長い範囲を所管しています。最近では北陸新幹線が来年3月に敦賀まで延伸され、NEXCO各社では4車線化事業が進められています。まだ途中段階ではありますが、地域のポテンシャルが上がっていくということは、局長がお話になったとおりだと思います。

整備されたインフラを活用して、地域創生や地域活性化を図り、建設業もそうですが、地元の方が労働力として定着できるような形となっていると思います。例えば、富山県は電力・水が豊富で、産業の地盤は整備されており、今後は半導体関連産業の増強も相まって活性化していくと思っております。建設業界としてもフォローするとともに、地元企業さんと連携していきたいと思います。今後とも、北陸地域の公共事業の安定的・持続的な予算措置をお願いいたします。

②2022年度補正予算、2023年度予算について

（日本建設業連合会北陸支部長）

「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」が着実に進められ、その後の中期計画を定める「国土強靭化基本法」も改正されたところです。また、8月には令和6年度概算要求として、公共事業関連費6兆2,900億円が要求され、11月29日には補正予算が成立したところです。

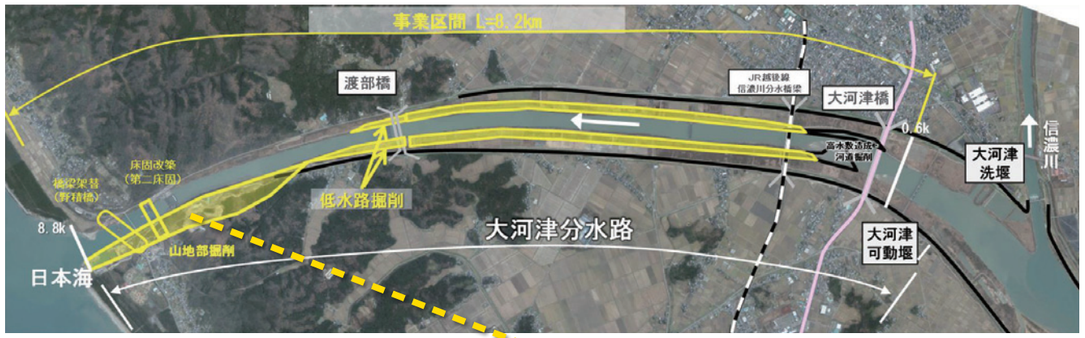
そういった中、2023年も自然災害は激甚化、頻発化しています。また、ウクライナ情勢などによる資源価格の高騰に見舞われた日本経済を支える屋台骨として、盤石なインフラが不可欠であり、今後も安定的・持続的に予算措置されるとともに「5か年加速化対策」を上回る「国土強靭化実施中期計画」予算の措置が望まれております。

北陸地域における防災・減災対策をはじめ、主要なプロジェクトである大河津分水路の改修事業や日沿道建設事業、利賀ダム建設事業などの今後の予定などについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

今年度の事業進行としては、令和5年度当初予算に令和4年度の二次補正、防災・減災、国土強靱化のための5か年加

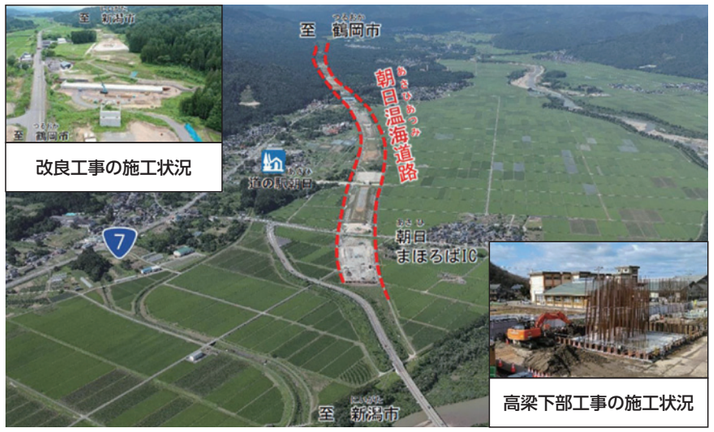
大河津分水路改修事業



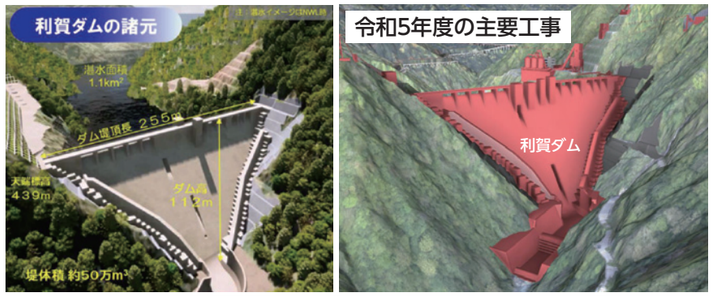




国道7号　朝日温海道路



利賀ダム建設事業（庄川水系利賀川）





速化対策予算を加えて、今年度の事業執行をさせていただいています。また、11月29日に令和5年度の補正予算が成立し、北陸地方整備局管内では1,337億円の補正予算の配分があったところです。

これから年末にかけて、令和6年度当初予算を編成することとなりますが、何より大事な事は切れ目なく予算執行して、地域にとって必要不可欠なインフラが過不足なく、早期に効果が発現するように、円滑に事業執行されていくことが必要だと思っています。まだまだ北陸管内にはやるべきことが山積していますので、今般成立した補正予算に加えて、来年度当初予算を併せて、次年度の事業執行も円滑に進めていきたいと思います。業界全体としては、まだまだ十分余力があると伺っていますので、日建連各社には円滑な事業執行にお力添えをいただきたいと思っています。

また、主要プロジェクトである大河津分水路の関係ですが、平成27年に着手して令和6年で10年目を迎えることとなります。現在、精力的に第二床固改修工事を実施しているところですが、現時点で鋼殻ケーソン9基の内、6基まで設置済みとなっています。また、野積橋は橋台2基の内、右岸側のA2橋台が完成、橋脚4基の内、河道内の3基が完成しています。BIM／CIMのモデル工事として3次元のシミュレーターを統合しながら、複数工事に活用していますので、進め方も含めて、DXを引っ張る大きな事業だと思っています。

2か月前に大河津分水路の現地も見せていただきましたが、JVの方々にPR館を現地に設置していただき、VRの技術を使って現場の状況が一般の人にも分かりやすく見える形にしていただいており、非常に有難く感じているところです。主要な事業ですので、引き続き新技術にチャレンジしながら、広く情報を発信して進めていきたいと思っています。

日本海沿岸東北自動車道の朝日温海道路は全長約40キロの道路になります。トンネルと橋梁が非常に多い道路で、全体で21本のトンネル工事の計画があり、新潟県内では16本を計画しています。現在、1本のトンネルが完成、4本が施工中であり、まだ11本が未着手という状況となっていますが、引き続き計画的に事業を推進してまいりたいと考えています。また、橋梁は橋長100メートルを越える長大橋が全体で10橋計画され、新潟県内では、その内9橋が計画されています。現在、そのうちの2橋が下部工を施工中ですが、7橋については未着手の状況であり、順次計画的に着手していくこととなります。

利賀ダムについては、これまで本体着手に向けた仮排水トンネルや工事用道路の整備を順次進めているところです。工事用道路については、現在2本のトンネルを施工中であり、排水トンネルについてはほぼ完了して、端部の処理を行っているところです。いよいよ本体着手に向けて本体工事とダム上流右岸側の法面対策工事が現在、発注手続き中となっており、年度末には契約ができる予定になっています。

ダム工事は息が長い工事であり、富山県に行った際に県議会議員の方々と意見交換をさせていただきましたが、その中で、県議の方々が利賀の地元に入って地元の地域住民の方々と意見交換をされたということをお聞きしました。その中で利賀ダムを建設する時には相当な作業員の方が現地に来られますが、一方で地元は過疎化して都市部に人が流れて、空き家となっている住居が多くあり、地域の方々からは空き部屋を作業員宿舎に有効活用していただけないかというご意見が出たようです。まだ契約手続き中で施工者が決まっていない状況ですが、息の長い工事になることから、例えば、施工者が決まった後に工事を実施する中で、地域の方々としっかり向き合いながら進めてもらいたいという話が意見交換の中で出たところです。

以上が主要な事業の現時点の状況となっています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

ご説明いただいた大河津分水、日沿道、利賀ダムのほかに輪島道路等もありますが、持続的・安定的に予算をつけて執行していただいており、非常に有難いと思っています。

昨年8月には新潟県の県北で集中豪雨による災害がありましたが、私は過去に三面水系と胎内川水系の二つのダムの施工を担当させていただきました。施工している頃も経験したことがない時間100ミリ以上の豪雨でありましたが、ダムが有効に機能して、村上市街地では氾濫がなかったのは本当に良かったと思います。局長からもお話がありましたように、有効な建設投資を必要なところに行ったことで、役割を果たせたと思っています。雨の降り方も変わってきており、必要なところへの防災・減災事業を引き続き進めていただきますようお願いいたします。地域との協調というお話を頂きましたが、施工者としても地元説明会を行う中で、100パーセントとはいかないまでも要望にはできる範囲で応えていく必要があると思っています。ダム工事では、核となる部分の技能者は大体150人くらいになると思いますが、それ以外に専門工種、基礎地盤改良でも60人程度はスポット的に現場に入っていただくことも必要になり、宿舎の手配も困ることがあります。そういった面では、空き家の活用等は十分可能かと思いますので、しっかりと検討していきたいと思っています。

③北陸の活力ある地域づくりについて（DXの取り組推進）

（日本建設業連合会北陸支部長）

北陸地方整備局様では、令和3年8月に「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」）が策定されました。6つの基本戦略を設定し北陸の活力ある地域づくりが進められるものと承知しております。また、インフラ分野においてもデータとデジタルを活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の取組みにご尽力をいただき、直轄土木工事においてBIM/CIMの適用が始まり、計画・施工・管理段階の情報一元化への活用にも取組んでいただいているところです。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、現場においても監督・検査の遠隔化など、非接触・リモート型の働き方への転換の取り組みを進めていただいたところです。こうした状況を踏まえて、今後も働き方改革、生産性向上を図り、建設業界の維持・発展につなげていくことが重要と思っております。今後の現場における生産性向上に向けた新たな取り組みなどについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

現場の生産性向上は、特に重要なテーマだと思います。いろいろな取組みを行っていますが、例えば、ICT技術の効果的な活用もその一つだと思います。ICT技術も国土交通省全体で進めていますが、ICTの土工工事が一番根付いて進んでいると思います。北陸管内の工事の中で、約8割の発注案件がICT土工の活用工事となっています。大河津分水路に行った際に、山地部の掘削、土工工事を見ましたが、まさにこのICT土工で施工され、地元3社が入った3工区に分けた工事の中で、同じ仕組みを取り入れていました。運行管理システムをダンプに搭載し、今、どこでどこのダンプがどういうことをやっているかを全てモニタリングできる形となっていました。突発的な指示であっても、直ぐにダンプに伝わる状況を見せてもらいましたが、ICT土工がかなり定着しており、大手建設業だけではなく、地元建設業の方々も相当程度使われている重要なものだと思います。

また、北陸独自の取組みとして、平成30年からは砂防工事においてもICT工事を精力的に進める取組みも行っています。また、ICTの海岸工事や、潜水作業の安全性の向上、生産性の向上となる出来形計測にICTを使う試行工事も今年度から始まっています。引き続きICT技術を大手、中堅だけではなく、地元建設会社も当たり前に使えるような状況にしていきたいと思います。そのために北陸技術事務所で北陸インフラDX人材育成センターを年度内に完成させ、新年度から使えるよう整備を進めているところです。

そして、DX技術を使って、設計の段階から施工、管理も含め一気通貫でデータを引き継いで生産性向上を図る取組みも大変大事だと思います。国総研においてデータベースをクラウド上に設けて、円滑に情報を共有するための仕組みを構築したところであり、DXセンターの有効活用も含め、それを活用できる人を増やすため、先ほど紹介したDX人材育成センターも併せて、少ない人で質の高いものを短い時間で造ることができるよう生産性向上に引き続き取り組んでいきたいと思います。

プレキャストのさらなる有効活用も重要なテーマです。北陸管内は、プレキャストをこれまでも先導的に活用してきたという歴史がありますので、引き続き、生産性向上につながる使い方をしていきたいと思います。例えば、プレハブ鉄筋やハーフプレキャストを有効に使う新たな取組みも、現在、準備をしているところです。そういったICTやDX、プレキャストなど、新たな取組みもしっかり進めながら、業界全体の生産性向上につながるような取組みを引き続き実施してまいりたいと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

DX等への取組みについてお話を伺ったところですが、ICT技術は要素技術として完成したものが多くありますが、現場で導入するにはまだ通信環境が厳しいところが多くあります。山の中では通信環境が中々整っていないので、まずはその整備から始めなければならず、ネックの一つとしてあると思っています。5Gや将来普及が見込まれる6G等が広い範囲で使えるように基盤整備を進めていただければ有難いと思います。衛星も使えますが、山に入ると木や山の尾根が邪魔することもあり、衛星1台を捕捉しても精度が上がらないので、3台、4台を捕捉できるようになれば、現場での実装も進んでいくと思っています。自動車の自動運転化も進展していく中で、徐々に環境も整ってくると思っています。

BIM／CIMにつきましては、各社で技術者を育てている段階にあると思いますが、北陸インフラDX人材育成センターは育成面では非常に有難く、活用させていただき技術者を増やしていく必要があると思っています。採用活動を行う際にDXについて話をすると、すごく興味を持って聞いていただいて、「建設業はこんなこともやっていたんだ」と言われており、担い手確保にも効果があるものと思っていま

す。局長からお話があったように、上流段階からBIM／CIMデータを活用して、現場に入ったらすぐ使えるよう、施工者としても一生懸命取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（北陸地方整備局長）

通信環境の話は、山中の砂防事業では通信環境が取れないところもありますが、ICT技術を使う際にスターリンクを活用するということも聞いています。ICT技術が進んでいますが、世の中の流れ的には、通信環境も追いついてくるのではないかと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

ICT土工やそれ以外の部分についても通信環境が整うことが必要だと思っています。これまではCADオペがやればよいという世界でしたが、一般の土木技術者がBIM／CIMを習得しICT土工を実践できる世界が必要になっています。建設業界一体となってしっかりやる必要があると思いますし、大手だけではなく、地元の会社も含めて北陸支部50社が足並みを揃えて進めていきたいと思います。

プレキャストについては、北陸地方の冬季間は天候が悪く作業日の確保が難しいこともあり、プレキャスト型枠、鉄筋のプレキャスト化を進めることは工期を守るためにも重要だと思っています。職人が少なくなっていく中では、有効な手段だと思いますので、施工者としてもしっかり取り組んでいきたいと思います。また、設計段階から取り組んでいたければ、現場での展開も比較的進めやすいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革（週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進）について

（日本建設業連合会北陸支部長）

私どもの建設業界におきましても、政府による積極的な施策のもと、建設事業の着実な遂行に加え、「働き方改革」と「生産性向上」を強力に推進し、担い手の世代交代に確固たる道筋をつける必要に迫られている状況にあります。このため、日建連では、「建設キャリアアップシステムの普及・推進」と「週休二日の実現」に業界の命運をかけて取り組んでいるところです。建設キャリアアップシステムにつきましては、建設技能者の保有資格、保険の加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積することにより、技能者が能力や経験に応じた処遇を受けられる環境を整備することで、将来にわたって建設業の担い手を確保することを目的としております。北陸地方整備局様におかれましては、支出負担行為担当官が発注されるすべての一般土木工事（WTO対象工事）においてモデル工事を実施していただく他、分任支出負担行為担当官が発注される工事においてもモデル工事を実施いただいておりますが、建設技能者の処遇改善にもつながるこのシステムの普及・推進に、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

また、週休二日につきましては、日建連会員企業の昨年度通期における閉所率は、土木で4週8閉所以上が約54.5%、建築で約30.8%という状況ですが、2023年度末までに4週8閉所を推進すべく取り組んでおります。

北陸地方整備局様におかれましては、2021年度に公告・完成された工事の4週8休の達成率を98%としていただき、今年度からは土日の現場閉所を月2回から3回とし、土日に関わらず週休2日を月1回とする取り組みを行っていただいているところであり、民間発注工事への普及・促進においても加速させることができるものと考えております。目前に迫っている2024年度からの時間外労働の上限規制については、発注者に週休2日工事の重要性・必要性に関する理解を深めていただくための説明と、週休2日工事を前提とした工期が確保された契約の締結を推進することが重要と考えております。今後の具体的な取り組みがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

週休二日と働き方改革への取組みは、来年4月からの改正労働基準法の施行が数か月後に迫っている中で、まさに待ったなしの状況になっています。時間外労働規制の適用に備えるべく取り組むという意味はありますが、本質的には、将来の担い手確保というために、本当に働き方改革をやらないかぎり、新しい人たちが建設業界に入ってきてくれないと思います。一つには、今の学生の方々は、他産業との比較の中で建設業を見ており、当たり前に休めるということと、計画的に休みが取れるということが極めて重要であり、土日も含めていつ休めるか分からないという状況では、建設業界に入ろうという気持ちにならないと思います。そういう意味では、現場閉所、土日休みというのは本当に大事な取組みだと思います。

北陸管内では段階的に現場閉所を拡充してきて、新潟、富山、石川県内において統一的に月3回以上の土日を現場閉所としており、日本の中では一番現場閉所が進んでいます。引き続き、現場閉所を進めたいと思いますが、まだ課題があり、例えば、国直轄工事であっても、現場閉所はできても超勤の問題ということがあります。正確に把握はできていませんが、想像すると現場閉所も含めて4週8休相当はほぼ100%に近い形で取れている一方で、上限規制に適用する超勤時間に収まっているかというと、そうではない実態があると思っています。国の工事という側面からすると、量的な休みの確保はほぼ達成しており、次はきちんと休みが取れて、なおかつ時間外労働の上限規制のキャップにも収まるような質の向上を目指した働き方としていかなければならないと思います。そのために、今年度から工事にもウィークリースタンスを取り入れて、例えば、金曜日に仕事をお願いして月曜日の朝までということを行わない、ランチタイムや午後5時以降の打ち合わせをしない、午後5時間際や定時後に作業依頼をしないよう取り組んでいます。1週間の中でもこのようなタイミングで作業依頼をすると、結果として、持ち帰って仕事をすることにもつながることから、これまではコンサル業務にだけ適用していましたが、今年度からは受発注者間相互のルールを工事でも適用する取組みを行っています。

国の直轄工事ではなく、例えば、市町村等の工事では必ずしも週休二日、4週8休が相当程度進んでいるかというと、中々そこまで進んでいない市町村もあることから、国直轄工事以外のところについては発注者協議会を通じて4週8休、週休二日を促進するような取組みを引き続き行っていこうと思っています。その一つの手段として、新たに週休二日適正工期を発注者が宣言するような仕組みを発注者協議会の中で、今後、議論していきたいと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

新規入職者を確保するためには、週休二日を実現するとともに、残業時間を減らすことも重要と考えています。各社も協力業者と意見交換を随時行っているところですが、昔は技能者の方からは土曜も出て収入を確保したいとの意見もありました。しかし、最近では4週8休を確保しなければ人が来てくれないという認識が協力会社さんの中でも強くなっており、ここ2年くらいで大きく変わってきたと感じています。

日建連は土工協から始まっており、どちらかというと土木が主体の団体でしたが、現在は建築も含めて活動しており、働き方が土木と建築は多少違いますが、土木、建築関係なく同じようにしっかりと取り組まなければいけないという意識に変わり、来年度に向けて足並みが揃ってきたというイメージは持っています。

北陸地方整備局様では書類の簡素化に取り組んでいただき、ここ数年のアンケート結果からもかなり進んでいるという認識を持っています。引き続き簡素化に取り組んでいただきたいと考えております。また、女性を登用するということになると育児等がありますので、残業時間については、局長からお話があったように午後5時以降の会議は行わないというだけではなく、女性が働きやすい環境とするため、午後4時頃には主要な会議を終わらせるということも考えていきたいと思っています。

（北陸地方整備局長）

書類の簡素化のお話がありましたが、働き方改革の中で、残業時間を規制の中にきちんと収めるためには、きちんとした適正な工期設定がなされているとともに、作成する書類が多いことから、本来受注者が準備すべき書類ではないというところも含めて取り組んでいかなければならないと思っています。県の建設業協会の方々との意見交換の中でも、そういった話は聞いているころであり、書類の簡素化、削減に向けて、今年度中にそういう話を踏まえて取組みを強化しようと考えています。平成27年に工事書類の簡素化のリーフレットを地方整備局で作っていますが、実体が伴っていない部分も中にはあると聞いていますので、大幅に充実するものを今年度中に作成したいと考えています。受注者、発注者の適切な役割分担、「これは発注者が準備する、これは受注者が準備する」ということが明確になるものとし、ペーパーレス、電子データの活用などを具体的に紹介、解説するものを作って、我々の事務所、出張所までしっかり周知するとともに、同じものを業界にもオープンにしていきたいと考えています。受発注者双方が同じものを持って、それぞれの役割をしっかり果たすこととし、重複の資料を求めない、また、本来受注者が準備すべきではないものまで準備をさせるということを未然に防ぐため、今年度中に作成をし、しっかり周知をした中で、来年度にスタートしていきますので、お気付きの点があれば、いろいろな現場で声を出していただければと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

リーフレットの改定を含め、役割分担を明確にしていただければ有難いと思います。また、それを建設業界の中でもしっかりと周知していくことも必要だと思います。日建連としても他の発注者にも取り組んでいただくよう、周知・啓蒙活動を行っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

適正な工期ということについては難しいところもありますが、週休二日を基本にした工程を発注者にお示しすることを日建連の指針として掲げていますので、最近では民間の発注者の方の理解も深まっていると思います。日建連としても引き続きしっかり取り組んでまいりますので、ご指導いただきますよう、お願いいたします。

⑤建設界の広報活動について

（日本建設業連合会北陸支部長）

日建連北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために、社会資本整備の意義や重要性について、一層の理解を得るため、積極的な情報発信に努めているところです。令和3年度に「社会資本整備の重要性に関するシンポジウム」を北陸地方整備局様のご後援をいただき、新潟県商工会議所連合会と共催で開催したところですが、令和6年度においても「国土強靭化実施中期計画」に基づく強靭な国土造りや地域活性化の機運の醸成を図るため、シンポジウムを開催する予定としております。

また、「土木学会関東支部新潟会と共催の「親子工事見学会」、新潟地区、石川・富山地区における大学・高専の学生を対象とした「市民現場見学会」を毎年、実施しているところです。近年はコロナ禍にあり、現場と学校（学生）をリモートでつないだ現場見学会を実施していましたが、今年度からは学生の皆様にリアルの現場を見ていただくとともに、北陸地方整備局様のご協力を得て、忌憚のない話ができるよう若手技術者との意見交換会も合わせて開催したところです。国土の保全（災害対応等）や地域づくりを担う社会資本整備と魅力ある建設産業への理解促進の観点、また、担い手確保の観点から、広報に関しての北陸地方整備局様での具体的な取組み、又はご提案などがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

広報活動は大事な事であると思います。広報の目的には色々ありますが、一つは、税金を使って必要な社会資本整備を行っていますけれど、税金を支払ってもらっているタックスペイヤーの人たちに対して、それぞれの地域で真に必要な事業を行っているということを正しく理解していただくために、広報はとても大事だと思っています。山の中で整備をしている砂防事業がありますが、一般市民の人からすれば山の中の見えないところでやっているのですけれども、50年前の羽越水害の教訓のもとに数十年単位で砂防堰堤を築いてきたことにより、昨年8月の新潟下越地方の大きな豪雨災害から守られた集落も多くあります。砂防堰堤がなければ、もっと大きな被害も想定される状況もあり、大きな効果を発揮しましたが、そのことを一般市民にも分かっていただくことが大事です。砂防、河川、道路、港湾、空港事業を進めていくと同時に、一般のタックスペイヤーの人たちに対する広報活動というのは、正しく理解をしていただくため、事業と同じくらい重要視して我々も取り組まないといけないということだと思います。もう一つが、担い手確保という意味で、現時点の建設業界を正しく知っていただく、魅力あるものであるということを分かっていただくことが大事であると思います。

BIM／CIMの話の中で、「今の建設業はこんなこともやっているのですか」という話があったとのことでしたが、国交省全体で進めている新4Kの最後のKが「格好いい」ですけれども、まさにBIM／CIMでいろいろなICT技術を使いこなしながら事業を進めていることが、一般の人たちからすると意外な感じを持たれるのかもしれません。また、学生も授業の中で聞いているだけではそういう世界は中々見えないと思います。そういった意味で、現場見学会で学生の方々にリアルな建設現場を見ていただくという取組みが本当に大事だと思います。日建連北陸支部も入っていただいている「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」には、教育機関、官、民間の各団体も入っていただいており、全体として担い手確保のための広報活動を行うことも含め、教育機関の現状も踏まえながら、正しく情報提供するという取組みは本当に大事です

し、業界全体としてのこの取組みをこれからも大事にしていきたいと思います。新たな魅力向上の発信として、引き続きインフラDX、働き方改革の推進などをきちんと伝えるということも方針の一つですし、身近に感じてもらうような取組みとして、現場見学会、職場体験、出前講座などを行っていくことも大事だと思います。加えて、産学官の連携した取組みも大事であり、一緒に取組んでいきたいと思います。日建連では「ももいろインフラ―Z」の放映により、インフラ整備を紹介されていますが、官ではなかなかできない世界であり、今後も様々なテーマで企画をされると聞いていますので、建設業界が国民に正しく理解していただくための取組みとして期待しています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

納税者の方々の理解という面では、建設業は自分達だけの世界でずっと仕事していた感は否めないと思っています。また、ピーク時から約30%も労働力が減っており、担い手確保に取り組んでいかなければ、しっかりとした社会資本整備はできないと思っています。自分達がやっている仕事の有効性ややりがいを理解していただくよう、業界として弱かった部分を見直して、広報活動を進めていきたいと思っています。

これまでは土木の大きい現場で見学会を行っていましたが、今後は建築の大規模なビル工事など、違った面も見ていただきたいと思っています。「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」に出席させていただきましたが、学校の先生方から学生がどの様に考えているかをお聞きし、改めて建設業界に対するイメージを知るよい機会でした。業界としても引き続き、社会資本整備をしっかりと進めていくという建設業の重要性をPRしていきたいと思います。

⑥日本建設業連合会等への要望について

（日本建設業連合会北陸支部長）

我々の業界は、社会を支える基幹産業であると自負しております。特に、北陸地域はそのウエイトが他の地域よりも高く、重要な産業であると認識しています。北陸の活力ある地域づくりという観点から、日本建設業連合会または建設業界に対して、ご意見、ご指摘、またはこうするべきではないかというお話がございましたら是非、お聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

3点ほどありますが、まず1点目は、大手の建設業の皆様がICT、DXを含めて先導役、リーダー役として先陣を切って進めていただき、効果として生産性向上にこれだけつながったということを世の中に発信してもらいたいと思います。そのことにより、地域の建設業界も、「この様な効果があるのであれば、大変かもしれないがチャレンジしよう」という意識に変わると思いますので、先導の役割をこれからも果たしていただきたいということです。

2点目は、一つ一つの工事の中で適正利潤をしっかり確保していただきたいし、元請だけが適正利潤を確保するのではなく、下請として1次、2次、3次で入っている協力会社の方々も含めて、適正利潤を確保してもらいたいということです。そういう流れにより、担い手確保や建設業界全体の処遇の改善につながっていくと思います。下請の人たちは主導的にできないので、元請の責任としてやっていただきたいということです。

3点目は、比較的大手の建設会社が地域で仕事をする際に、例えが悪いかもしれませんが、黒船のように仕事があるときだけ来て、終わればさっといなくなるということがないようにしていただきたいと思います。地域から信頼される大きな船として、地域の工事の中に入ってきてもらいたいと思います。そのためには、建設のフロー効果、地域への波及効果を相当意識してもらいたいと思います。例えば、地域での購買の仕方や工事を進めるうえでの1次下請、2次下請の使い方においても、地域の建設業者を使うことで、地域の中でお金が回るような取組みを相当意識をしてやってもらいたいと思っています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

大手だけではなく、地元にもICT技術を展開するべきと思っています。各社でICT技術に取り組んでいるところですが、地元の協力会社さんも、相当数が各現場に入っていただいておりますので、ノウハウは伝承できると思っており、しっかりと地元の協力会社さんまで展開していきたいと思います。

適正利潤の確保については、しっかりと対話して進めていきたいと思っています。国交省様で推進していただいている建設キャリアアップシステムが一つの適正な利潤を確保するための賃金の根幹になっていきますので、そこをしっかりやって、透明性と対等性について十分留意してやっていきたいと思います。

建設キャリアアップシステムについては、初年度登録した事業者が来年度から更新しなければならない時期になってきています。今年度の内からしっかりと取り組み、せっかく登録したものが無駄になることがないようにしていきたいと思います。カードの色にあった処遇改善にも取り組み、適正な利益の還元、技能者の処遇改善にもつなげていきたいと思っています。

地域のことを考えた工事の遂行ということについては、基本的には、コスト等も考慮して地元の業者にお願いするということを基本にしています。ICTの展開を含めて、しっかりと地元の業者と連携するよう、引き続き意識して取り組んでまいりたいと思っています。

⑦災害対応について

（日本建設業連合会北陸支部長）

近年では、令和元年の台風19号による豪雨により、信濃川水系千曲川の堤防決壊など甚大な被害をもたらしました。また、令和4年8月の局地的な豪雨により、新潟県、富山、石川県でも甚大な被害が発生したところです。近年多発しているこうした局地的・集中的・激甚的な豪雨災害に備えていかなければなりませんが、大規模な災害に対応するための事前防災についてのお考えや新たな取り組みについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

今年の石川県能登地方を震源とする地震で日建連からブルーシートの手配をいただくご協力をいただきましたし、これまでの類似の大きな災害のときに、その都度ご支援をいただいておりますことに、この場をお借りまして感謝申し上げます。大規模な災害に対応するための事前防災につきましては、予算を入れたら入れただけ強くなる、強靭化されることとなります。事前防災はうそをつかないので、そういった観点では防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策予算が措置されることにより、この数年間で相当大きな効果が出ていると思います。来年は4年目の執行となりますが、5年の計画であり、その後がどうなるのかはこれからの議論になると思います。どういう形になっても、現在、日本全体が災害の激甚化、頻発化が非常に顕著となり、雨の降り方も尋常ではない状況ですので、防災・減災を行うための取組みを切れ目なく、引き続き円滑に実施していくということが重要だと思います。

令和5年5月5日 珠洲地震の対応

被災状況



がけ崩れの状況（あおぞら号にて確認）
（5/6 珠洲市正院町岡田）



高屋出田線の法面崩壊により、全面通行止め
（5/6 珠洲市石神町～若山町）

災害対策本部の状況等



リエゾン



（石川県庁）

道路・橋梁調査



橋梁の損傷状況を調査
（珠洲市・能登町）

河川砂防調査



地すべり防止区域内の被災状況を調査
（珠洲市）

雪害時の乗員保護・給水支援 令和5年1月大雪



支援物資の集積・積み込み
（富山河川国道事務所）



（参考）通行止め後の待機待ち車両の
状況確認への協力



特別養護老人ホーム
「あての木園」での給水

令和5年7月12日からの大雨の対応状況



排水ポンプ・照明車派遣状況（浄化センター）
（石川県津幡町）



排水ポンプ車活動状況（神通川水系井田川）
（富山県富山市）

加えて、事前防災を行うだけではなく、今この瞬間に災害が起こったときに、被害が極小化するような取組みということも同時に大事になります。北陸地方整備局では、日建連とも協定を結ばせていただいていますけれども、現時点で242の様々な機関と防災協定を結ばせていただいているところです。いざといった時に、その災害が起こった地域で必要なもの、必要な取組みがスピーディーに行えるよう、民間の力も最大限活用させていただきながら総力戦で取り組んでいきたいと思います。いざという時にしっかり手足が動くような防災訓練が大事であり、毎年、複数の機関と一緒に様々な防災訓練を行っています。これから冬の時期に差し掛かってきますので、雪害対策も大変重要となってきます。昨年12月に新

潟県内でも大きな雪害があって、国道8号を含めて大規模な車両の滞留が生じました。今年はそういう類似の災害時に円滑に災害対応ができるよう、防災訓練を行っています。災害は起こらないに超したことはないのですけれども、災害が一旦起こったときに被害を最小化するような防災訓練にしっかり取組んでいるところです。

また、過去の災害を風化させない取組みも大事です。令和6年は新潟地震から60年、新潟焼山の火山災害から50年、中越大震災・7.13水害から20年の節目の年となっています。そういう過去の災害を風化させない取組みを新潟県、新潟の全市町村と連携して、防災・減災新潟プロジェクト2024を1年かけて展開する予定としています。過去の災害を風化させず、災害を自分事化してその教訓を未来につなげていく、そういう取組みを関係自治体の皆様方とも連携しながら進めていきたいと思っています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

災害については、事前防災としてハード的な部分は、これまでやってきた部分が効果を発揮していますが、防災訓練を含めたソフト面も非常に重要だと思っています。何かあったときにどう行動するかということを、地域の方を含めてしっかりと共有していかなければならないと思っています。そういった面では、地域の建設業の方々との連携がものすごく大切だと思いますので、整備局様と我々が災害協定を結んでいるように、地域の方々とも連携できるよう取り組んでいきたいと思っています。

災害が起きたところでは動きようがないということもあり、広域的に手を差し伸べるということは非常に重要だと思っています。日建連北陸支部の所管も3県に跨っており、そういった連携について整理しておきたいと思っていますし、来年度に取り組みを進めていこうと思っています。

防災・減災新潟プロジェクトについては、地域住民の方の意識醸成につながれば、非常に有効な取組みだと思いますので、ぜひ、情報提供をいただきますよう、お願いいたします。

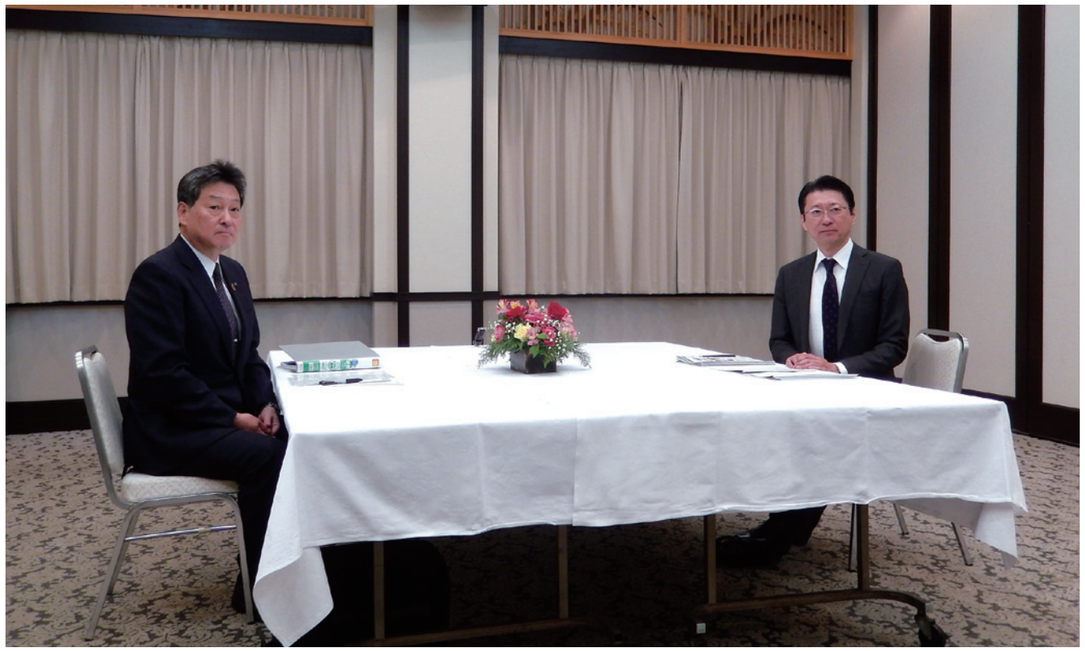
⑧終わりに

「北陸けんせつミライ2024」というアクションプランを北陸地方整備局として新たに整理しました。冒頭申し上げたように、北陸地域はポテンシャルがある反面、各地域ではいろいろなリスクを抱えている中で、建設業界は地域の作り手でもあり、地域の守り手の役割もあります。地域がしっかり役割を果たすことで太平洋側の軸だけではなく、日本海側の軸も日本全体の中でもっと活躍すべきではないかという議論になっています。インフラ整備や維持管理は、地域の経済や産業活動、地域の生活にとっては本当に必要な役割を担っていますので、建設業界と一緒になって北陸を元気にして、結果として日本全体を活性化していくという形にしたいと思っています。そのために、北陸の建設業の未来に向けて、適正利潤をしっかり確保してらうことも大事ですし、働き方改革を時世に合わせていくということも大事です。未来につながる建設現場として、生産性向上の取組みも大事な取組みですので、日建連を含めた北陸の建設業界の方々と一緒になってしっかり前に進め、それによって北陸地域が、日本の中で役割を果たしていくこととなるようにという思いで整理をさせていただきました。引き続き、日建連の北陸地域の皆様方とも一緒になってこういった取組を進めていきたいと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

最近、南海トラフ地震が話題になることが多いですが、日本海側の背骨に当たる北陸地方のバイパス機能は重要だと思います。来年3月に延伸される北陸新幹線の敦賀駅をパトロールで訪れた時に、そういった災害時のために、エスカレーターや改札が5分で1,500人を捌けるようになっているとお聞きし、インフラ整備はそれくらい重要な役割を果たさなければいけないのだと感じたところです。今後も北陸地方整備局様のご指導をいただきながら、地域の活性化に向けて一生懸命頑張っていきたいと思います。

本日は有難うございました。



MY PRIVATE TIME 私のプライベートタイム



株式会社鴻池組
北陸営業所 所長
伊藤　秀治
shuji Itoh

「38年ぶり」

1985年11月2日（土）20歳の私は16歳の弟と二人で横浜の実家を出発し、所沢にあるまだ屋根のない西武球場に真っ赤なスターレット（小さい車です）で向かってました。そうです38年前の「アレ」を観戦しに行ったのです。友人が「第6戦のチケット2枚あるから行かない?俺は広島ファンだから行かないけど‥」と言ってきて飛びつきました。今のようにチケットにも柔軟性がなく、第6戦まで日本シリーズが続かなければ当然観戦できないわけですがそこは神頼みで弟を誘って行くことにしました。あれから38年…長かった…

両親の英才教育で阪神ファンに育て上げられた私はなんの迷いもなく生まれてから、暗黒時代も、もうちょっとで優勝しそうな時も、リーグ優勝して日本シリーズに勝てないときもずっと応援してきました。気が付いたら38年も日本一になってなかったなんて、びっくりです。本文を書くのにちょっと過去を調べていたら、野球には1リーグ制という時代もあり、1リーグ制の時にも阪神は優勝しておりそれが1947年でした。38年周期なのです。次回は96歳です。人生100歳時代なので可能かもしれません。そんな私のプライベートタイムはスポーツ観戦とりわけ野球です。直接球場に行くのも、テレビの前でビールと枝豆で観戦するのも、スマートフォンで時々結果を確認するのもどれも好きです。

今は面影がありませんが、かつての高校球児であった私は高校野球を観戦するのも楽しみで、20年ほど前に高崎城南球場で観戦した夏の高校野球群馬大会予選の一コマが忘れられません。桐生の高校だったかと思いますが、接戦の末サヨナラ負けを喫したチームの3番バッターの捕手の話です。白球が左中間を抜けて、1塁ランナーがホームを駆け抜けて大喜びをしている勝利チームの脇で呆然としゃがみこんでいたあの球児が忘れられなくて。ホームベース上で挨拶しベンチに戻るチームメートの傍ら、レーキを持ってきて自分のポジションであるキャッチャーボックスを入念に、泣きながら、何度も何度も均す姿に、私と隣にいた妻も目が離せなくなってました。最後は監督と審判に肩を抱えられながら引き上げていくころには私も泣いてしまった…こんなささやかな素敵な場面に遭遇できるのもスポーツ観戦の魅力かなと思います。新潟でもアルビレックスベースボールチームがプロ野球イースタンリーグに参戦するのを楽しみにしています。

遅れましたが自己紹介をさせていただきます。私は1965年兵庫県生まれ、小学生から父の転勤の関係で横浜へ移り住みました。現在は東京の下町在住で新潟単身赴任満喫中です。職歴は土木現場23年、土木営業12年、とりわけ現場では東京電力の揚水式発電所12年（山梨の葛野川発電所3年、群馬の神流川発電所9年）、都市再生機構の千葉県流山おおたかの森造成工事に6年が主な現場経験となります。当社鴻池組は2021年7月に北陸営業所を再開した、北陸においては未成熟ではありますが、一方で創業150年を超える建設会社でもあります。今後とも宜しくお願い致します。



スカイツリーより高い!?落差714メートルの「葛野川発電所」

葛野川発電所は、山梨県甲州市を流れる富士川水系日川の源流部に上部ダム（上日川ダム）を、大月市を流れる相模川水系土室川の中流部に下部ダム（葛野川ダム）を建設し、揚水式発電では日本一を誇る有効落差714mを利用して、単機出力（40万kW）の発電電動機4台により、最大出力160万kW（現在は最大出力120万kW）の発電を行う大容量の揚水式発電所です。現在、1・2・4号機（40万kW）が運転を開始しています。



世界最大級の揚水式水力発電所「神流川発電所」

神流川発電所は、長野県の南相木村を流れる信濃川水系南相木川の最上流部に上部ダム（南相木ダム）を、群馬県の上野村を流れる利根川水系神流川の最上流部に下部ダム（上野ダム）を設置し、この間の有効落差653mを利用して、単機出力（47万kW）の発電電動機6台により、最大出力282万kW（現在は最大出力94万kW）の純揚水式発電所です。現在、1・2号機が運転を開始しています。

提供／東京電力リニューアブルパワー





流山おおたかの森

特集2

市民現場見学会

富山・石川地区

新潟地区



富山・石川地区

事業概要説明（発注者）



新潟地区

目的

■ 石川・富山地区において建設系学生に対して、建設業界のやりがい・魅力を発信・理解して頂くために市民現場見学会実施
■ 現場見学および発注者、施工者の若手職員との懇談を行い、建設現場への理解を深めてもらう

開催日 令和5年7月24日（月） 14:30～16:30

見学先 利賀トンネル（2工区）工事

■ 発注者：国土交通省北陸地方整備局
■ 施工者：大成建設株式会社
■ 参加者：金沢大学理工学域 地球社会基盤学類
2年生34名、先生1名

当日の流れ

・国土交通省北陸地方整備局
利賀ダム事務所による利賀ダム事業概要説明
・利賀トンネル（2工区）現場概要説明・現場見学
・利賀ダムDXルーム見学
・発注者、施工者の若手職員と参加者の懇談会



現場見学（施工者）



懇談会

参加された学生の代表意見

アンケート回答意見を代表意見として要約

・インターンシップがあれば体験してみたいと思った。
・若手職員との懇談を通して、現場で働いている人の雰囲気や職場について知ることができ、とても参考になった。
・発注者、施工者の話を聞くことで自分の将来について考えることができた。

アンケート回答意見

・少人数で話を聞くことができたので些細なことでも聞くことが出来て良かった。
・貴重なお話を聞くことが出来て、とても参考になった。
・とてもためになった。
・転勤のことや、女性の仕事内容について知ることができて良かった。
・若手の人もいて話やすかった。雑談で色々話せたのが楽しかった。
・実際に現場で働いている方の話を聞くことが出来て良かった。
・ゼネコンで働いているひとの雰囲気や職場について知ることができて良かった。
・楽しく話せた。
・なにも知らなかったのでお話を聞けて自分の将来について考えることができました。

今後に向けて

・昨年まではコロナ感染症の懸念材料があったためオンラインでの開催でしたが、今年は実際に現地で市民現場見学会を開催することができました。
参加された学生の皆様も現地開催が良いという声が多数でした。
今後も学生の皆様に興味をもって頂けるような市民現場見学会を開催し、担い手確保ができるようにしていきたいと思います。

最後に、市民現場見学会開催にご協力頂きました国土交通省北陸地方整備局さま、ならびに大成建設株式会社の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年9月、日本建設業連合会北陸支部および土木学会関東支部新潟会の共催による『市民現場見学会』を行いました。新潟大学および長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校の学生をはじめ多くの方々に参加していただきました。

開催日 令和5年9月25日（月）

見学先 工事名：R1-4朝日温海道路4号トンネル工事

■ 発注者：国土交通省 北陸地方整備局
■ 施工者：安藤ハザマ・不動テトラ特定建設工事共同企業体
■ 参加者：新潟大学・長岡技術科学大学・長岡工業高等専門学校・土木学会会員



今回の見学会は、学生の方々に対しては、建設業のやりがい・魅力を発信するとともに、実際に現場を肌で感じていただき、建設業で働くイメージの形成を目的に、また、一般の方々には、事業概要の理解、現場作業状況の紹介等を目的に開催いたしました。

現場見学の前に、最寄りの道の駅『朝日みどりの里』にて、学生を対象とした「若手技術者との交流会」を実施いたしました。各テーブルに、官民の若手技術者を1名配置し、学生は5～6人のグループに分かれ、食事をしながらコミュニケーションを図りました。学生たちは、日頃の業務内容・社内の雰囲気・給料・休日など…様々な質問を投げかけ、若手技術者の返答を熱心に聞いていました。

昼食後は、「朝日温海道路4号トンネル」の現場を訪問しました。現在、新潟県・山形県・秋田県の主要都市を結び青森県に至る延長約322kmの日本海沿岸東北自動車道（日沿道）の整備が着々と進められていますが、このうち、新潟・山形県境の「朝日まほろばIC～あつみ温泉IC」区間（延長約40.8km）は「朝日温海道路」として事業化されています。現地では延長1185mのうち1016mまで掘削を進めており来年度の完了を目指しております。見学会では、施工者の安藤ハザマ・不動テトラJVの松元監理技術者から動画等により工事概要の説明を受けました。その後、切羽（掘削の最先端部）まで坑内を歩きながら、建設機械や作業の流れなどをJVの籾山所長より説明を受けました。現場見学後には「地質の違いによる掘削の進捗」や「積雪時の施工」についてなど、活発な質疑応答がありました。

見学会後のアンケートでは、今回の開催に好評な意見を多数いただきました。また、多くの学生が建設業界への就職に興味を持っているとともに、労働環境や休日・残業等に不安があることがわかりました。今後も働き方改革をはじめ、魅力ある建設業へ向けて、更なる注力が期待されます。

最後に、見学会開催にご協力いただきました北陸地方整備局様ならびに施工関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。







親子工事見学会

小学校高学年を対象とした「親子工事見学会」を開催

令和5年8月1日に（公社）土木学会関東支部新潟会、（一社）日本建設業連合会北陸支部の共催による「親子工事見学会」が4年ぶりに行われました。

トンネル現場見学



デジタルサイネージ前で概要説明



トンネル支保工の機能について説明



切羽を見ながら施工方法について説明



高所作業車の乗車体験



重機に乗車し記念撮影



坑口前にて記念撮影

見学場所

■ 工事名：磐越自動車道
　　宝珠山トンネル工事
■ 発注者：東日本高速道路㈱新潟支社
■ 施工者：（株）大林組

磐越自動車道三川IC～安田IC間における4車線化事業の内、トンネル工事、土工事、橋梁下部工工事を担当





当日は、夏休み中ということもあり、小学校の児童たちと保護者の方々が多く参加されました（計23名）。現場到着後は2班に分かれて「トンネル現場」および「磐越自動車道4車線化事業PR館」を交互に見学しました。子供達は初めて見るトンネル最先端部分の切羽面や重機の乗車体験に感嘆の声を上げていました。また、PR館では3Dスキャナー体験やVR体験を行い、子供達は近未来の建設現場に思いを馳せていました。

見学会後のアンケートでは、大半の方々に「とてもよかった」「印象に残るものがあった」等といった高評価をいただけました。また、児童からは「将来建設関係の職業を選びたい」といった建設業に対する前向きな回答もいただき、意義のある見学会になったのではないでしょうか。

最後にご多忙の中、当見学会にご協力いただきました東日本高速道路㈱新潟支社様をはじめ、施工関係者の皆様、誠に有難うございました。

DX技術体験



VR体験



PR館内にて概要説明



i-Padを使用した3Dスキャナー体験

みて、ふれて、知る 新技術・新工法

けんせつフェア北陸in金沢2023

～ インフラDXが明日を変える ～

■開催日／令和5年10月4日(水)～5日(木)　■会場／石川県産業展示館4号館





開会挨拶／遠藤北陸地方整備局長

産・学・官の優れた建設技術を一堂に集め、技術の研鑽・高揚並びに情報の交流の場として「けんせつフェア北陸in金沢 2023」が10月4日(水)、5日(木)の2日間にわたり、石川県産業展示会館で開催されました。

本フェアは、国土交通省北陸地方整備局をはじめ新潟県、富山県、石川県、新潟市、東日本高速道路㈱新潟支社、中日本高速道路㈱金沢支社、日建連北陸支部他の建設業団体で構成する実行委員会が主催し、16回目となる今回は「安全・安心」、「自然・文化」、「連携・活力」をテーマに屋内会場、屋外会場166の出展があり、67出展社によるプレゼンテーションも行われました。

また、担い手確保・育成の取り組みとして石川県内と富山県内の大学、・高専、高校の学生が2日間で805名来場し熱心に各展示ブースを見学。

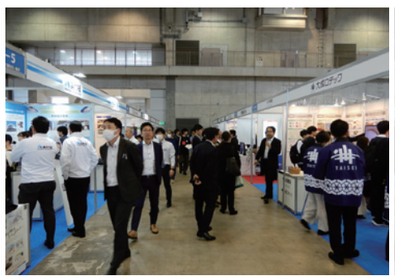
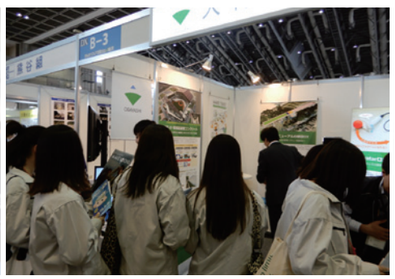
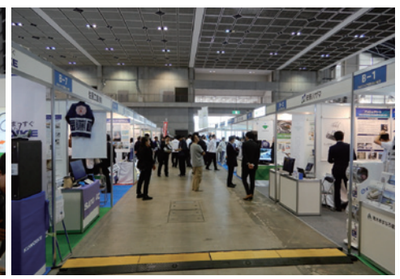
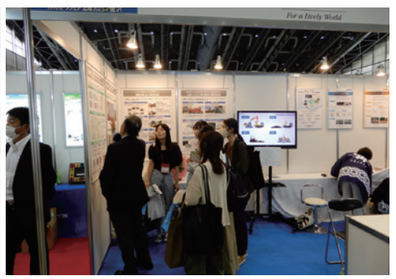
日建連北陸支部からは、27社82技術について展示があり、2日間で4,921人の方々に、各社保有の建設技術を「みて、ふれて、知って」頂くことができました。

■日建連北陸支部会員会社からの出展状況

会社名	テーマ	出展技術名	会社名	テーマ	出展技術名
青木あすなろ㈱	①	水陸両用ブルドーザー	東亜建設工業㈱	①	クレーン吊荷制御装置［GYCO］
	①	ダイス・ロッド式摩擦ダンパーを用いた橋梁耐震工法		①	ARナビ
㈱安藤・間	③	アッシュクリート～灰の大量有効活用～	東洋建設㈱	③	著床式発電施設に適用するサクションバケット基礎
	②	低空頭での床版取替作業を可能とする改良型門型クレーン・床版吊装置		②	ケーソン据付システム「函ナビ」の施工現場への活用
㈱植木組／NTT東日本	②	他分野で取得したMMSデータの舗装工事での利活用	西松建設㈱	①	山岳トンネル無人化施工システム「Tunnel RemOS」
㈱大林組	②	橋梁リニューアル統合管理システム「OBRISオブリス」		①	インフラ監視クラウドシステム　OKIPPA
	②	リアルハプティクス技術を活用した建設技能作業再現システム	日特建設㈱	①	スロープセイバー
	①	木質バイオマスを使用した脱炭素化に貢献するコンクリート「リグニンクリート」		①	ニューレスプ工法
	①	木造建築技術（Port Plus、オメガウッド等）		③	ジオファイバー工法
㈱奥村組	①	下水道管理の実施例		①	N-jet工法
	①	災害廃棄物輸送統合管理システム	㈱NIPPO	③	ECOフォームド
	①	奥村組の免震技術		①	リペッドベーブ
鹿島建設㈱	②	革新的光ファイバによるインフラモニタリング		①	レミファルトECO
	②	スマート床版更新（SDR）システム		①	VR安全訓練
	②	A4CSEL®（クワッドアクセル）		①	エラスベーブ
㈱熊谷組	②	北陸新幹線における生産性向上技術	㈱フジタ	③	ハイリフト無濁浚渫工法
㈱鴻池組	①	Reライニング工法		②	トンネル抗内自動巡視ドローンシステム
	①	SOCS工法		①	全自動ドローンシステム
	①	CXPグラウト工法		②	aiロックローダー
五洋建設㈱	①	山岳トンネルにおける防水シート溶着作業の自動化		①	ロボQS
	①	港湾工事におけるICT活用	㈱不動テトラ	②	消波工におけるICT技術の活用例
佐藤工業㈱	①	締固めや配管盛替えを不要にした覆工打設の省力化		②	GeoPilot®-AutoPile
清水建設㈱	②	3眼カメラ配筋検査システム		①	ベルメックス
	②	SCプレミアムベルコン		①	テトラネオ
	③	世界最大級の自航式SEP船		①	CI-CMC-HG工法
	②	トンネル技術各種		①	Visios-3D
	③	シミズの脱炭素技術		①	SAVE-SP工法
第一建設工業㈱	①	任意深度定着型仮締切工法（(D－flip工法）	㈱本間組	②	ICT本体工「3D函体据付システム」
	①	断面修復乾式吹付け工法（sto工法）		②	ICT本体工「函体自動注排水システム」
大成建設グループ	①	T-eCon/Recycle		①	音響カメラ搭載型ROV
大成建設㈱	①	重機無人化・自動化技術		②	現場におけるAR技術の活用
大成ロテック㈱	①	トンネル施工技術		②	中継ポンプ船「越後9000」
	③	中小規模水力発電所の建設	前田建設工業㈱	①	自動装薬システム
	③	ウッドファイバー舗装		①	吹付ナビゲーションシステム
	③	TRミックスアクア		①	履工再生工技術
大日本土木㈱	①	コテプリ	三井住友建設㈱	③	ラクカメラ
	①	ハイビーネオ		③	SMC-スマートメジャー
	①	ミニアンカーPI		③	水上太陽光フロートシステム
鉄建建設㈱	②	点都データを活用した配筋検査システム	若築建設㈱	②	コンクリートAI締固め管理システム
	②	超低空頭場所打ち杭工法		②	ナローマルチビームソナー搭載自律航行式ラジコンボート
	②	HEP&JES工法		③	SDGSに貢献する施工・技術

出展テーマ　① 安全・安心　② 連携・活力　③ 自然・文化



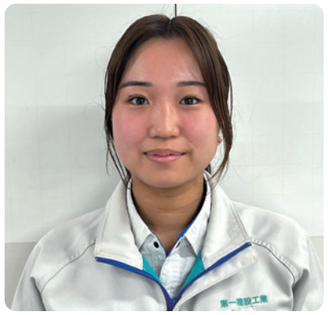





現場で輝く
けんせつ小町

けんせつ小町
KENSETSU-KOMACHI

「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

「地域に密着し、線路を守る女性技術者を目指して」



第一建設工業株式会社
新潟支店　柏崎工事所
三原田　朱里
Akari Miharada

今回は、第一建設工業株式会社新潟支店に勤務され柏崎工事所でご活躍されている三原田朱里さんをご紹介します。

Q. 建設業界を目指したきっかけ

A. 私が建設業を目指した一番のきっかけは、幼少期から祖父両親共に建設会社で働いている姿を見ており、強く憧れを抱いていたからです。また、人の役に立つ仕事を考えたときに、建設業に就職して、インフラ整備を行うことで地域の方をはじめ多くの方に不自由なく生活をしていただきたいと思ったのもきっかけの一つです。就職活動中に建設業の中でも、鉄道の仕事は終電から始発までの決められた時間内での作業、理想の数値にまで軌道状態を調整し一切妥協しない姿勢などに魅力を感じ、線路部門のある第一建設工業株式会社に就職することを決めました。



Q. 現在の業務・やりがいについて教えてください

A. 現在の業務は、列車の少ない夜間作業が中心で検修作業の検測員、大型保線機械を用いたレール運搬のオペレーターとして従事しています。オペレーターとして従事した際は、踏切内の通行に際し通行車（者）との接触に注意を払うなど、安全に作業箇所の営業線から保守基地線に決められた時間内に戻ることが重要です。計画した時間通りに業務を遂行することの難しさを感じています。また事務所での内業は踏切に関わる工事の通行止め申請、近隣住民への工事案内、工事の作業実績管理、竣功時の写真整理など事務処理を行っています。

入社2年目、今年から軌道改良工事の担当を初めて任せて貰い、年度内に工事が竣功する予定です。踏切工事で自分が自治会長さんから同意を取り、通行止めの申請をした場所が綺麗に施工され地域の方が安全に踏切を渡る時や、列車の安全走行や乗り心地など人の役に立てている所を目の当たりにするとやりがいを感じることができます。



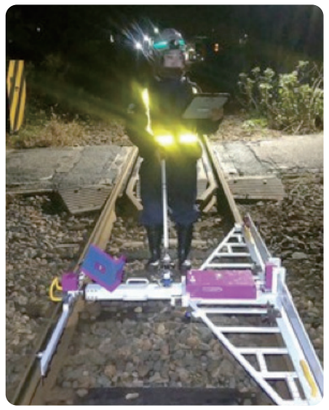
Q. 女性に建設業を選んでもらうには

A. 母が建設業に入り、私自身も建設業に飛び込む間に20年程経ちますが、未だに男社会なのは変わりありません。また、所属している線路部には女性社員が私と同期の二名が入社して初の女性技術者となりました。近年では工事現場の掲示板に「女性技術者も働いています!活躍しています!」など様々な所で目にする機会があり、女性技術者が増加傾向にあることも分かります。今回のけんせつ小町の特集などPR出来るところで発信していくことにより、必ず見てくださる方はいます。

建設業には3Kの通りマイナスなイメージはありますが、自治会長さんや地域の方にお会いした際に、「女性でこのような仕事をしていて尊敬する」や「大変なこともあるけど男性に負けじと頑張ってほしい」など応援してくださる方がたくさんいます。

このような活動をもっと活発化させ、女性も働ける環境があり・活躍できることを知っていただくことが必要だと思いました。





Q. 未来のけんせつ小町への思い・メッセージ・アドバイス

A. 時代が変わるごとに女性も働ける環境が整い、現場責任者として前に出たり、男社会という概念が段々と減少されてくると思います。不安な気持ちやマイナス的なイメージは、働いてみないと中々拭うことは難しいかもしれませんが、現在に至るここまで女性技術者が活躍できるという認識が広まったのは間違いなく、先陣を切って現場に従事されている先輩方のおかげだと思います。

少しでも興味のある方は、ぜひ一緒に働いてみませんか?

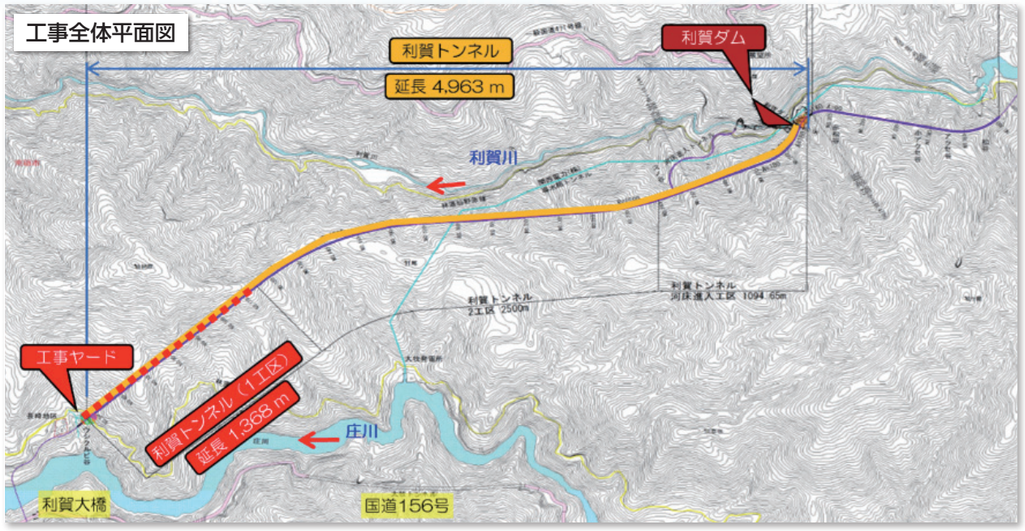
未来のけんせつ小町の方と一緒に働ける様に私も現場で奮闘し続けます!

若手技術者の現場紹介

利賀トンネル（1工区）工事

清水建設㈱　大屋　森太郎 | Shintaro Oya





利賀ダム事業概要

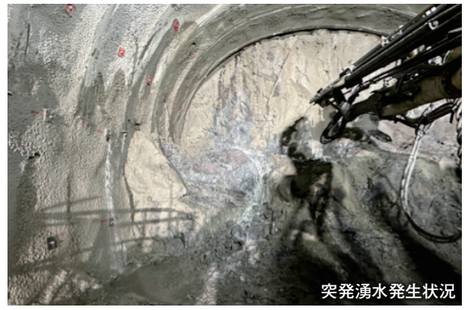
利賀ダムは、庄川の右支川である利賀川において、河口より約40㎞、庄川合流点より8㎞の位置に建設を進めている多目的ダムです。その目的は①大雨時の洪水調節、②渇水時期の流水の正常な機能の維持、③工業用水の確保、として計画されています。利賀トンネルは、この利賀ダム建設事業にかかる工事用道路の一部として計画され、ダム完成後には国道471号バイパスとして供用される予定です。

工事概要・現場特性

本工事は、利賀ダム建設事業の工事用道路トンネルとして施工している利賀トンネル（全長4,963m、3分割発注）のうち、最下流部（L=1,368m）をNATM工法により施工するものです。令和5年6月よりトンネル仮設備工に着手、8月末に坑口部のトンネル補助工法を施工、9月からトンネル掘削工を開始し、12月末時点で掘削延長180mに達しています。

現場の特性として、トンネル坑口に集落が近接しており、昼夜発破掘削作業を進める上で継続的に周辺環境影響抑制に努め、地域のご理解を得る必要があります。また、設計の特徴として、トンネル掘削工においてコスト縮減を考慮した長孔発破仕様の支保構造が採用されている点と、突発湧水発生が懸念される区間数か所には水抜きボーリングが計画されている点が挙げられます。実施工においては、掘削延長184mに至るまでに約1.5t/分の突発湧水に遭遇し、冬季は大量の積雪の中でも工事を継続するなど、厳しい自然環境下での施工を行っている現場です。


トンネル坑口


突発湧水発生状況

現場の中での自分の役割・現場を経験して・学生へのメッセージ

私の当工事での役割は、工事の立ち上げの時期は仮設備の構築を計画し、本格的に施工が始まっている現在ではトンネル掘削の現場管理を担当しています。想定外の突発湧水や大量の積雪等の困難な条件に対して、問題解決を繰り返し、関係者一丸となって現場を前進させることができるのは大きな喜びです。

現場では、安全や品質、コスト、工程、環境等の様々な項目に対する適切な管理が要求されます。そして、それらの管理方法にはその現場の担当者の感性が反映されます。日々の学びを現場管理に還元し、自分が正しいと思うことが現場で正しく実現されているときの充足感は得難いものです。

ぜひ私たちと一緒に建設業界で働いてみませんか?

ゆうたいむす

「やはり、ぬるめの燗がいい。」



紀伊國屋書店
新潟店所属
石川　温子　Atsuko Ishikawa

♪お酒はぬるめの燗がいい～

いつ買ったのかわからぬ酒を電子レンジから取り出し、食前の一献をたしなむ父。音痴な父が歌う八代亜紀と、熱燗の馥郁（ふくいく）とした湯気が漂う食卓。

これが私の原風景でした。

東京でOLとして働いた20代。海外のワイン品評会に日本酒部門ができた頃で、香り高く甘酸っぱい、ドイツの白ワインのような吟醸酒が流行り始めた頃でした。

お付き合いのお食事会でも「お上品な」日本酒をいただく機会に恵まれました。「ワイングラスで香りを楽しむのが通だ」と大きなグラスに注がれ、「キンキンに冷やして室温に戻りかけの12℃が飲み頃なのだ」とグラスが曇るまで焦らされ、「繊細な香りをお楽しみください」と柔軟剤よりもほのかな香りを探り…。

礼儀礼節のようなものを通過してやっと、のど元を通過する吟醸酒。

その質感の感想を聞かれ「とても滑らかですね」という無難な回答で乗り切ること、星のごとし。八代亜紀の唄と晩酌酒の米の香りが恋しくなる夜は、こっそり蒲田の立ち飲み屋で熱燗を飲んでいました。

30代になって早々。新型コロナの感染拡大の影響から、勤めていた貿易会社が貿易業から撤退。私も「酒の国にいがた」へ帰ってきました。

角打ちに入ると、常連さんが飲む「特撰」のシールが貼られた茶色の4合瓶が目に入りました。店内にある「清酒」「普通酒」「その他醸造酒」ありとあらゆる晩酌酒が私を迎えてくれたような気がします。

「お姉さんもどう?」目が合った常連さんのご相伴にあずかりました。

その飾らぬ米の香りに嬉々とした父の姿を思い出し、ふと呟いていたのでしょう。

「お酒はぬるめの燗がいい」

事務局だより　2023年度の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

■公共工事の諸課題に関する意見交換会
開催日／2023年5月31日（水）
会　場／ホテルオークラ新潟
内　容／ゆう74号2023年8月1日発行に内容を掲載・HP掲載

■北陸支部定時総会
開催日／2023年5月31日（水）
会　場／ホテルオークラ新潟
内　容／ゆう74号2023年8月1日発行に内容を掲載

■市民現場見学会
石川
実施日／2023年7月24日（月）
見学場所／利賀ダム
金沢大学学生対象

新潟
実施日／2023年9月25日（月）
見学場所／朝日温海道路トンネル
新潟大学・長岡技科大・長岡高専の学生対象
土木学会関東支部新潟会との共催

内　容／本誌に掲載

■北陸電力への本部役員挨拶
開催日／2023年7月27日（木）
押見土木本部長をはじめ本部役員と木村支部長により、北陸電力への挨拶を行い、金井代表取締役会長のご出席をいただき情報交換を行いました。

■親子工事見学会
実施日／2023年8月1日（火）
見学場所／宝珠山トンネル
建設業の社会的使命や社会資本整備の必要性を広く知っていただくために、夏休み期間中に小学校高学年の児童とその保護者の方を対象に、見学会を実施しました。
内　容／本誌に掲載

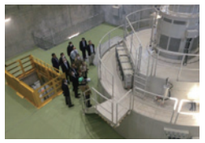
■東日本高速道路㈱新潟支社との意見交換会
開催日／2023年9月27日（水）　会場／白山会館
内　容／ホームページに掲載

■中日本高速道路㈱金沢支社との意見交換会
開催日／2023年10月12日（木）　会場／白山会館
内　容／ホームページに掲載

■安全パトロール・現場点検（9月～12月）
内　容／安全環境対策委員会（安全分科会）で新潟の現場パトロール。事故防止対策委員会で本・支部合同で交通安全・公害防止など点検を行いました。また支部単独でも点検を行いました。

■けんせつフェア北陸2023in金沢に参加
開催日／2023年10月4日（水）・5日（木）
会　場／石川県産業展示館
内　容／本誌に掲載

■工事視察研修会
開催日／2023年
10月23日（月）・24日（火）
視察場所／上越火力発電所・
新姫川第6発電所・
鵜川ダム



■「土木の日」記念講演会
開催日／2023年11月20日（月）　会場／日報メディアシップ
内　容／「今冬の雪害対策」と題して北陸地方整備局道路部長武藤氏の講演とアナウンサー伊勢みずほ氏を招いて『第二の故郷　新潟に恋して』と題しての講演会を土木学会新潟会と共催で開催しました。





■新潟市議会政策研究会との情報交換会
開催日／2023年11月28日（火）　会場／新潟市役所
内　容／公共工事の予算確保・入札制度の検討・工事施工円滑化・働き方改革と建設技能者の処遇改善について情報交換を行いました。

■労働災害防止安全推進大会
開催日／2023年11月30日（木）
会　場／新潟グランドホテル
内　容／会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。







■新潟労働局と安全環境対策委員会との意見交換会
開催日／2023年12月5日（火）　会場／興和ビル
内　容／ホームページに掲載

■現場代理人等との意見交換会
開催日／2023年12月12日（火）　会場／白山会館
内　容／ホームページに掲載

■建設技術報告会に参加
開催日／2024年1月10日（水）～1月31日（水）
オンデマンド配信
会員会社9社課題発表

■事故防止に関する講習会
開催日／2024年2月2日（金）
内　容／建設工事の産業廃棄物等の処理についての講習会を開催しました。
開催日／2024年2月22日（木）
内　容／地下埋設物事故防止についての講習会を開催しました。
開催日／2024年3月11日（月）
内　容／建設工事の交通事故防止についての講習会を開催しました。
会　場／新潟県建設会館

■新潟県との意見交換会
開催日／2024年2月8日（木）　会場／白山会館
内　容／ホームページに掲載予定

■JR東日本上信越建設PMOとの意見交換会
開催日／2024年2月15日（木）　会場／白山会館

■北陸地方整備局との意見交換会開催
開催日／2024年3月5日（火）　会場／白山会館
内　容／ホームページに掲載予定

■運営会議開催
開催日／2024年3月6日（水）　会場／興和ビル

■北陸地方整備局企画部と安全環境対策委員会との情報交換会
開催日／2024年3月12日（火）　会場／興和ビル
内　容／ホームページに掲載予定

BACK STAGE　編集後記

2024.3　75

2024年4月より働き方改革関連法が、建設業界に施行されます。建設業では、5年間の猶予期間があり発注機関である国土交通省をはじめ各官庁、また、日本建設業連合会、各企業が2024年4月に向けていろいろな問題を解決すべく取り組んできました。4月からは待ったなしです。

建設業界だけでなく物流・運送業界、医療関連業界にも条件が違っていますが、同様な法案が施行される予定です。

日本全体の働き方が変わろうとしています。従来のスピード感を維持するだけでなく、生産性を向上させるDX・IT技術による業務効率化を図ることが肝心と思われます。

日本の働き方を変えるには今がチャンスです。

写真は一昨年、高知市を訪れた際、高知駅で撮った写真です。駅前には3人の先人（坂本龍馬・武市半平太・中岡慎太郎）の銅像が高知市の街並みを眺望していました。また、高知駅にはアンパンマンを車体に描いた電車も停車しており老体の頭脳・眼を潤してくれました。新潟駅においても新潟県・新潟市及びJRに観光の表玄関としての新しい新潟駅の変化に期待しております。

（岡﨑　豊彦　記）


高知駅前の3名の銅像


アンパンマン車輌（全景）


アンパンマン車輌（側面）

広報委員会スタッフ

委員長　東峰　裕之（五洋建設）

委員　岡﨑　豊彦（熊谷組）
伊藤　恒治（安藤・間）
阿部　伸昭（植木組）
大川　祥功（大林組）
濱　一男（大本組）
垣内　俊彦（鹿島建設）
信清　孝樹（五洋建設）
久保田雄彦（清水建設）
小林　恵一（錢高組）
上田　進（第一建設工業）
長谷川正人（大成建設）
八塩　昌平（東亜建設工業）
津川　圭一（フジタ）
涌井　卓（前田建設工業）
工藤　悟（若築建設）

事務局長　三澤　正人
（日本建設業連合会北陸支部）